街の環境整備でつながる
市民と自治体

～地域の新しい道路行政を考える～

大阪市従業員労働組合
（大阪市建設局勤務）
引地　正司

道路の機能

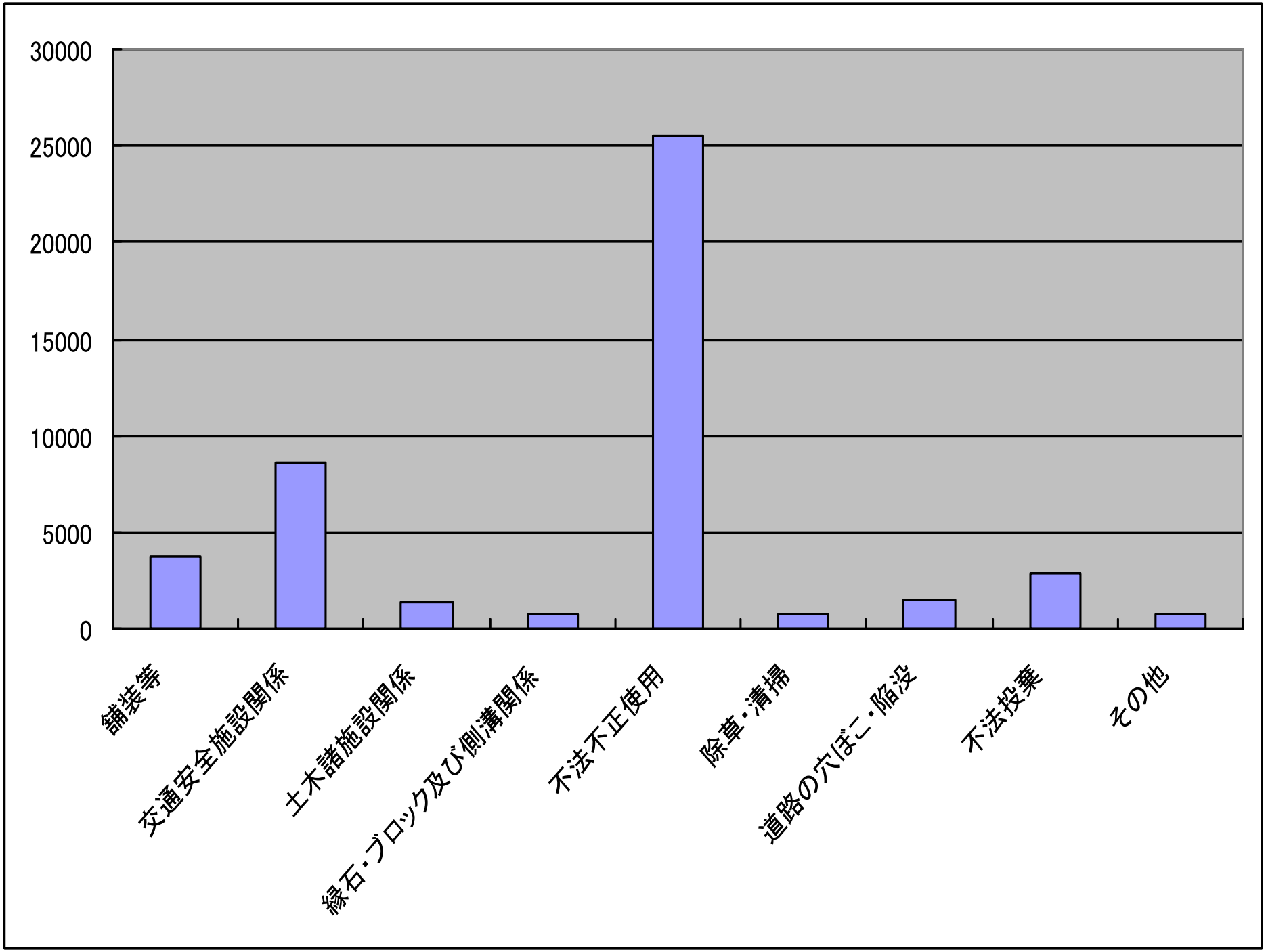
- 人や車や物が移動するための「道」としての機能
- ガスや上下水道、電気、情報通信網、公共交通機関など、ライフラインを内包する機能
- 日照を確保し、通風をたすけるなど、都市のオープン・スペースとしての機能
- 災害発生時の避難路および救助のための輸送路や、災害の拡大を遮断する空間など、都市防災のための機能
- 街区を囲み、都市の面的な規模や形状、発展方向など、街区の構成や市街地化の誘導に影響を与える機能

（参考資料：街路事業事務必携）

大阪市建設局7工営所で受理した案件数
（2009年度）

集計：大阪市建設局工務担当

	舗装等	交通安全施設関係	土木諸施設関係	縁石ブロック及び側溝関係	不法不正使用	除草・清掃	道路の穴ぼこ・陥没	不法投棄	その他
道路管理者による発見・計画	2014	3793	934	364	16726	467	901	1849	423
市民要望等	1760	4852	416	401	8809	240	595	1017	339
合計	3774	8645	1350	765	25535	707	1496	2866	762
備考	道路の改良・補修 振動・騒音対策	安全柵・ガードレール 車止め 道路照明灯	道路予定地 地下道等		放置自転車対策 放棄自動車 不法占拠等			道路の改良・補修 振動・騒音対策	


30000
25000
20000
15000
10000
5000
0
舗装等
交通安全施設関係
土木諸施設関係
縁石・ブロック及び側溝関係
不法不正使用
除草・清掃
道路の穴ぼこ・陥没
不法投棄
その他

地域に求められる道路行政は

- 障害物や段差がなく、通行しやすい道路環境の保持
- 安心で安全な歩行エリアの確保
- まちの景観と環境の向上

大阪市の道路政策のこれまでの問題点

- 地域の実情との不整合（設計本位、本課重視、声の大きな人の優先など）
- 単発型の要望解決（撤去頼みの自転車対策など）
- 無謀な街路計画と遊休地問題、など

↓

照明灯設置や舗装工事箇所の偏り、ハードに頼った要望解決、非効率的な予算執行などの弊害が生じやすい

また、放置自転車問題など、市民モラルとかかわる対策は、要望解決型では持続性がない

大阪市の放置自転車の実態（2007年10月内閣府調査）

東京

	面積（㎡）	人口	放置台数
板橋区	32.17	512873	6539
台東区	10.08	162744	5709
世田谷区	58.08	835782	5633
港区	20.34	195066	4850
豊島区	13.01	242557	4710
北区	20.59	317289	4536
中央区	10.17	105230	4395
練馬区	48.16	684107	3914
江東区	39.94	428294	3088
9区の合計	**252.54**	**3483942**	**43374**

横浜市

面積（㎡）	人口	放置台数
437.38	**3650018**	**24707**

大阪市

面積（㎡）	人口	放置台数
222.11	**2643805**	**50371**

全国ワースト1！

東京UFJ銀行
インターネット
コミック カフェ
COMIC BUSTER
KARAOKE-ROOM

McDonald

弊害の解消のため
建設局南工営所では何をしたか（1）

まず、市民要望の多い放置自転車対策の改革

・強制撤去中心の対策を改めて、移動時間を利用して毎日自転車整理

→　時は2005年の秋、大阪市バッシングの真っ只中、予想通りに悪罵を浴びる

→　しかし、「継続は力」、2週間ほどで市民の反応に変化

→　意見を言う市民と街角ウォッチング、駐輪場の改良など、施策に結びつける

→　大きな声に消されていた、市民の「呟き」に、職員が気づくようになる

取り組みの成果と発展

阿倍野区南田辺では市民や利用者の声を元に駐輪場の動線を改良

↓

周辺路上の自転車が激減！

住吉区我孫子町ではテナントの協力で点字ブロックの上の放置自転車がなくなる

西成区花園町では町会が自主的にポスターを作製し、利用者への啓発を行う

弊害の解消のため
建設局南工営所では何をしたか（２）

市民聴聞による対話を実行、地域のことは地域に聞く

・予算不足のため解決できない要望を、棚卸し的に徹底精査

→　議員や町会長など、「まちの有力者」の言い分を一方的に聞かない

→　必ず要望者本人との面談と、周辺の聞き込み調査を行う

→　市民と共に街角ウォッチング、よりよい対策を一緒に話し合う

↓

住民や店舗など、地域と顔がつながり、より密着した
関係がつくられる

取り組みの成果と発展

住吉区我孫子町にて、地域実情を知る現場職員が本課と粘り強く交渉、建設予定の多目的ホールを駐輪場に計画変更、道路はこんなに広かった！

西成区ではカーブミラーに代わる事故防止対策について地域住民と相談。
「飛び出し禁止」シールを電柱に巻いて解決。
市内の各地域に波及。
草の根からのコストダウンを図る。

これらの原動力は、職員の気付きと、市民との対話にあった。

↓

「職員の意識の変化」へと結びつく

「職員の意識の変化」の背景（1）

地域密着型の自転車対策が
地域や行政から高評価

→　市政改革本部からも評価され、
職員の自信につながる

→　市政改革にかかわる外部委員の
ブログにも紹介される

→「厳しい声」を建設的に受け止める
職場風土ができる

「職員の意識の変化」の背景（2）

大阪市従業員労働組合の職場活性化運動

組合員の労働条件の向上に取り組む反面、市民の側に立った業務のあり方の検討を軽視してきた反省に立ち、公共サービスに携わるものとして、より良い働き方について研究・検討と、実践を行い、自治体の改革をめざすもの。

↓

「大阪市従総合政策シンクタンク」の設立と5年間の研究活動

→　学者、市民など、外部の研究者」とともに働き方を考える

→　市民へのアンケート調査やNPOなどへの訪問調査

→　地域のまちづくりフォーラムや会議へも参加

「職員の意識の変化」の背景（3）

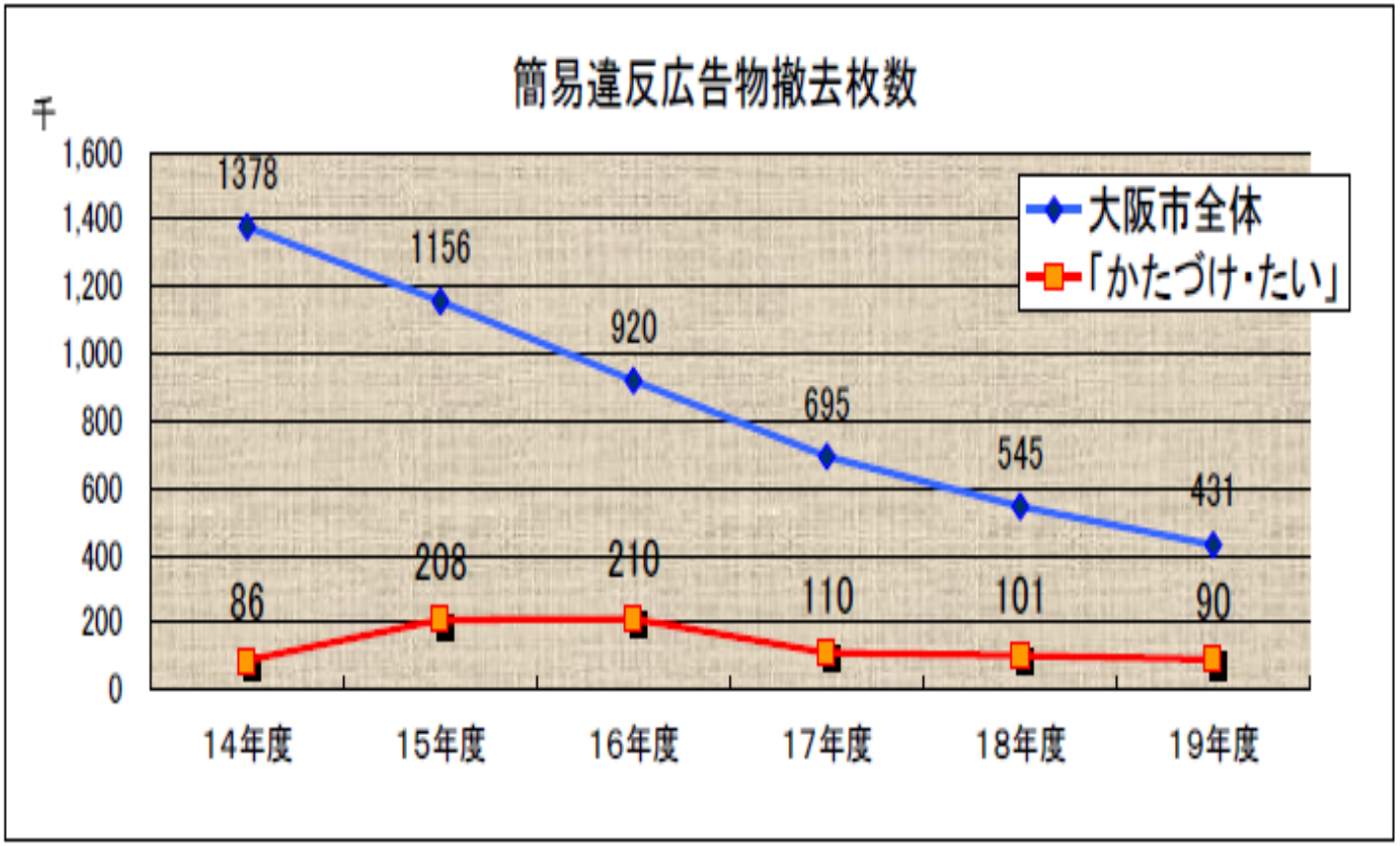
市民協働事業の成功例の存在

→ （例）「かたづけ・たい」（違反広告物にかかる市民活動員制度）の成果

「かたづけ・たい」の撤去実績と全市の撤去実績の推移

除却枚数（枚）

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度
全市合計	1,939,922	1,682,278	1,693,559	1,556,270	1,377,940	1,155,896	920,194	694,590	544,602	430724
（内）かたづけ・たい	―	―	―	―	86,364	207,994	210,110	109,554	101,304	89562



2010年4月現在、

242団体、4871人が登録

（大阪市HPより引用）

行政と地域の草の根的な連携と協働

自主的に駐輪場を設置し、ガードマンを配置したパチンコ店

駅近隣の病院の協力で放置自転車がなくなった地区

市民協働による放置自転車対策（なんば）

自主的に敷地内へ駐輪場を設置したマンション（住吉区）

住之江公園駅近隣の大型店舗・集客施設と効果的な駐輪対策について話し合い

住之江区の小学校での説明会

動き出した「市民協働」

（例）天下茶屋駅周辺の場合

サイクル・サポーター（建設局の放置自転車対策ボランティア）が、放置自転車整理を始める（2004年4月）。

ゆとりとみどり振興局の市民協働型緑化事業「種から育てる花づくり事業」で花を植えたプランターを設置し、地元が管理。

サイクル・サポーターとの連携性を高め、早朝指導を強化し、強制撤去を効果的に執行。

その結果、

McDonald's

ショップ南海
マクドナルド
Mister Donut

(2)－⑭		
(南海) 天下茶屋駅周辺 (2)－②、⑤ (2)－⑭	・調査・指導・啓発・撤去・勧告文貼付・その他 禁止区域内自転車整理 (南海)天下茶屋、自転車1358台 (地下鉄)玉出駅、自転車　190台 合計1548台	No.1450206
	・調査・指導・啓発・撤去・勧告文貼付・その他	No.1450406

2007年11月1日の日誌

整理した台数1358台

2009年11月調査では132台

大阪市長が打ち出した政策ビジョン
放置自転車・街頭犯罪ワースト1の返上をめざす

・市長、自ら地域に出向き、「市民協働」の実践と「縦割り行政」の解消に動く。

・民間出身の視点と感性による市長のキラー・パス、職員は戸惑いながら成長？

・放置自転車は2009年11月調査では約4200台（8000台減）。

自転車利用の適正化を進めるサイクル・サポーター

さらに、「かたづけ・たい」「サイクル・サポーター」から

ゆめまちロードOSAKA　へ

事例：淀川区西中島地区のとりくみ（大阪市HPより）

ゆめまちロードOSAKA　とは

大阪市では、道路を適正に維持管理していくため、
市民の皆さんの協力を得ながら
「放置自転車対策」「道路不正使用対策」「違反広告物対策」や
道路清掃をはじめとする「ごみのポイ捨て防止対策」など、
道路の適正利用、まちの美化に向けた各種対策を推進しています。
“ゆめまちロードOSAKA”は、
地域の環境美化改善に積極的な皆さんと関係機関が連携し、
これまで単独で行っていた取り組みを一体的に行うことで、
より効果的に各種対策を推進していくため
のシステムとして平成18年に発足しました。

大阪市HPより

個別のとりくみから、

まちの環境整備全般の取り組みへ、発展していく「市民協働」

今後の課題について

１．行政主導の事業から、市民に手伝っていただく「市民協働」の推進

２．日常業務での対話の重視、「顔の見える」保全巡視等の実施

３．そのことを通じ、都市防災と環境整備を、地域コミュニティを軸にして結びつける「花鳥風月のみちづくり」をすすめる

４．事業実施を担当する現場から、政策を立案するシステムの構築

５．労働組合の役割

・社会的良心の視点、市民福祉の増進に寄与する立場から、事業のチェックと、政策的な提言を行う
・職員の労働条件だけでなく、道路行政に携わる人たちの幸福に寄与すること
・公共サービス政策センターなど、労働組合や市役所だけの視点にとらわれない研究活動機関との連携を進め、政策形成につとめる